

令和3年（2021年）の知床硫黄山の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2021年の発表履歴

2021 年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
-------------	-------------------

○2021年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～5）

7月19日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）を実施しました。北西側中腹の爆裂火口、東岳大火口及び山頂付近などに噴気は認められませんでした。また、北西側の海岸付近には、これまでの観測と同様に温泉水による変色域が認められました。赤外熱映像装置による観測では、北西側中腹にある爆裂火口の弱い地熱域の地表面温度分布は、前回の観測（2019年7月）と比べて特段の変化はありませんでした。

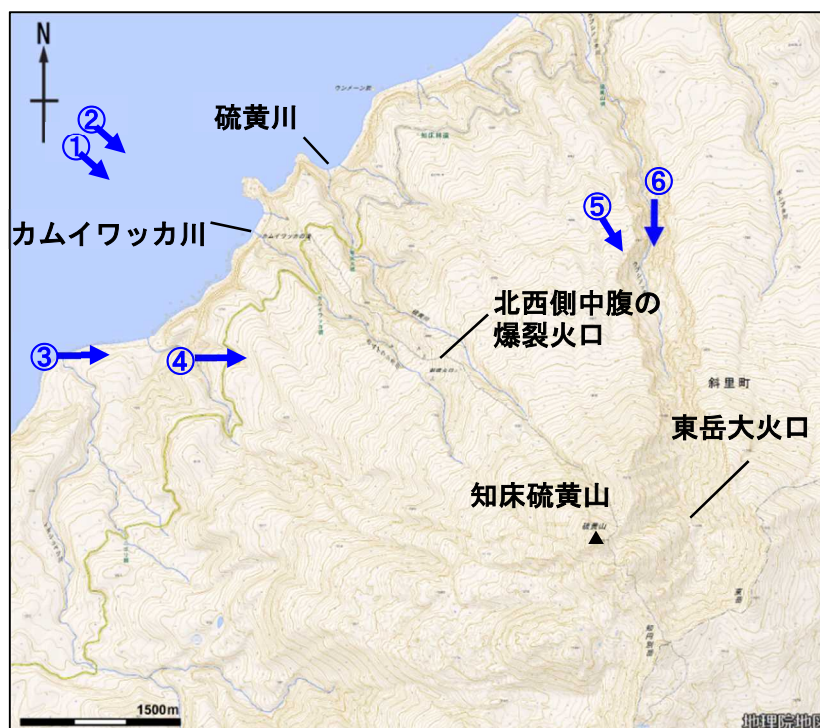


図1 知床硫黄山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図2 知床硫黄山 山頂部から北西側中腹にかけての状況 北西側上空（図1の①）から撮影



図3 知床硫黄山 硫黄川及びカムイワッカ川の河口付近の状況 北西側上空（図1の②）から撮影
・前回の観測（2019年7月）と同様に、海岸付近では温泉水による変色域が認められました。



図 4 知床硫黄山 赤外熱映像装置による北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布

上段：西側上空（図 1 の③）から撮影 下段：西側上空（図 1 の④）から撮影

- ・ 前回の観測（2019 年 7 月）と比べて、弱い地熱域（点線で囲まれた領域）の地表面温度分布には特段の変化は認められませんでした。



図 5 知床硫黄山 赤外熱映像装置による東岳大火口の地表面温度分布

上段：北側上空（図 1 の⑤）から撮影 下段：北側上空（図 1 の⑥）から撮影

- ・ 前回の観測（2019 年 7 月）と比べて、特段の変化は認められませんでした（一部領域で周囲に比べて温度が高く見えるのは日射による影響と考えられます）。